

Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

1-1-② 簡潔な文章化

1-1-③ 個性・特色の明示

1-1-④ 変化への対応

(1) 1-1 の自己判定

「基準項目 1-1 を満たしている。」

(2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

大阪樟蔭女子大学の使命・目的は、大学・大学院ともに、それぞれ「学則」第 1 条に次のように定めている【資料 1-1-1】。

大 学「広く一般学科に関する知識を授けると共に、深く専門の学術技芸を教授研究して知性を磨き女性としての豊かな情操と高き品性とを養成するをもって目的とする」

大学院「大阪樟蔭女子大学の教育理念に則り、学部教育の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を教授し、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うと共に、女性としての特性と人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする」

こうした本学の使命・目的は、創立者の建学の精神である「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」を踏まえたものである。

その使命・目的をもって教育し、体現されるべき人物像として、次のような人材の育成を、本学 3 つの学部における共通のミッションとして定めている。

1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。
2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。
3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身に付けた人。
4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。

また、大学院人間科学研究科では、次のような人材を育成することをミッションとして定めている。

- ① 人間を多面的かつ深く探求するとともに、人間生活の質の向上に資する専門的能力を習得できる人。
- ② 高度専門職業人として社会に貢献できる人。

さらに教育目的については、大学は学部・学科単位で「学則」第 2 条に、大学院は研究科の専攻単位で「学則」第 1 条に、それぞれ明確に定めている。大学各学部及び大学

院研究科の教育目的（本学「学則」上「教育研究上の目的」と称している）を、以下に表として示す〔表 1-1-1 大学、表 1-1-2 大学院〕。

〔表 1-1-1〕教育研究上の目的（大学）

学 部	学 科	専 攻	教育研究上の目的
学芸学部			人文系の国文学科、国際英語学科、心理学科と生活環境系のライフプランニング学科、化粧ファッション学科の5学科で構成し、学士課程基幹教育に加えて、それぞれに特色ある専門分野の学習を通じて、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。
	国文学科	—	日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成する。日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
	国際英語学科	—	国際語としての英語の役割を認識し、国際理解に貢献する高度で実践的な英語運用力の育成を図るとともに、英米文化圏に限定することなく、多文化社会に適応できる、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。特に、自国の言語・文化を国際的な視点から客観的に捉えることができる分析力と、それを世界に向けて発信する豊かな表現力・実践力を身につけた国際人を養成する。
	心理学科	—	人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。
	ライフプランニング学科	—	現代に生きる女性がその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材の育成を目的とする。また、日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につけ、食の伝統と文化を理解した上で自らの暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
	化粧ファッション学科	—	服飾・化粧を中心に、よそおいに関する幅広い専門的知識や技能、豊かな感性を養い、ファッション関連産業で活躍し得る人材の育成を目的とする。
児童教育学部			子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

大阪樟蔭女子大学

	児童教育学科	—	子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
健康栄養学部			健康をキーワードに、医療を中心とした現場で栄養教育や指導ができる管理栄養士の育成、ならびに、食を中心とした正しい健康情報を広く国民に教育指導できる人材の育成を目的とする。
	健康栄養学科	管理栄養士専攻	栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与する。
		食物栄養専攻	食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与する。

〔表 1-1-2〕 教育研究上の目的（大学院）

研究科	専 攻	教育研究上の目的
人間科学研究科		人間科学研究科は、学部教育の基礎の上に、広い視野に立つて精深な学識を教授し、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うと共に、女性としての特性と人格を陶冶し、もって文化の進展に寄与することを目的とする。
	臨床心理学専攻	人間や心の問題に関する高度な知識や技能を養うことを目的として、心理臨床の職業に携わる人材の総合力の育成を目的とする。
	人間栄養学専攻	臨床的に、より高度な専門知識と技能を持った管理栄養士の養成と、食品関連産業等の食に関する研究に携わる人材の養成を目的とする。
	化粧ファッション学専攻	身体と身体美、及び身体によそおいに関する高度な知識技能を養い、かつ現代社会における身体の在り様の含みもつ諸課題について深く考究させることを通して、生活の質の向上と産業の発展に寄与し、文化芸術の深化に資する人材の養成を目的とする。

1-1-② 簡潔な文章化

前項で述べた使命・目的及び教育目的については、大学・大学院ホームページの大学・大学院案内部分や『学園要覧』【資料 1-1-2】、学生並びに教職員に配付する『学生便覧』（学部生用）【資料 1-1-3】にも、簡潔な文章で明示している。

1-1-③ 個性・特色の明示

大正 6（1917）年の樟蔭高等女学校設立時に初代校長伊賀駒吉郎により起草された『設立の趣旨』に示された建学の精神である「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」という文言は、創立者である森平蔵が目指した本学教育の原点、建学の精神であり、時代を経ても変わらぬ本学における女子教育の個性・特色でもある。

この建学の精神を、大学の教育理念として明文化したところの使命・目的を学生に伝え、学部・学科及び大学院において定める教育目的に沿った教育を行い、学生自らがどのような能力を身につけ、いかに社会に貢献できるかを考え、実践することにより本学の使命は達せられる。それを目指して本学では、前述の 3 学部共通のミッションに加えて、資格取得を重視する児童教育学部並びに健康栄養学部においては、それぞれの資格に対応したミッションを、児童教育学部では 2 項目、健康栄養学部では 3 項目に簡潔に文章化している。また、5 学科からなる学芸学部では、各学科の教育内容に即したミッションを、それぞれ簡条書で簡潔に文章化し、明示している。それらを以下、表として示す〔表 1-1-3〕。

【表 1-1-3】 ミッション（大学）

学芸学部	学芸学部は、建学の精神に基づいた教育を行ない、次のような女性を育てます。 1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。 2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。 4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。
国文学科	5. 日本語・日本文化（言葉・文学・芸能・書道・創作など）に関する知識について学び、教養として身につけることで、正しい日本語や多様な表現を使いこなす、学んだことを自らの言葉で積極的に発信することで、社会に貢献できる人。 6. 大阪・上方のことは文化を積極的に理解し、他者に伝え、受け継いで行ける人。 7. 教員として教育界に貢献することはもとより、図書館司書、出版業界を含む一般企業、行政機関、地域社会などにおいて、日本語の高度な使い手として活躍できる人。
国際英語学科	5. 自分の意見を英語で正確に表現できる英語運用能力と、状況に応じて適切に判断し行動できる教養を身に付けた人 6. グローバル社会、とくにホテル・航空・旅行業をはじめとした企業において幅広く活躍できる人。 7. 中学校・高等学校を中心とした英語教育指導者や外国人に日本語・日本文化を教える日本語教師など、言語教育を実践できる人。

大阪樟蔭女子大学

	心理学科	5. 心理学の学びを通して、心の成り立ちや働き、発達、対人関係、心の悩みと援助などについての高度な知識と技能を修得し、社会の幅広い分野で活用できる能力を身につけた人。 6. 教育、福祉、医療・保健、産業、司法・矯正などの領域で、心理学の知識と技能を活かして活躍できる人。
	ライフプランニング学科	5. 理想の暮らしを実現するために、就職や結婚をはじめとするライフ・イベントに主体的に対処し、自ら人生をデザインできる能力を身につけた人。 6. 家計や食の分野に関して身につけた実践的な知識とスキルを活かして、自身の暮らしを向上させることはもとより、職場や地域社会で活躍し、社会に貢献できる人。 7. また、家計と食、家庭と地域社会に関する専門知識を社会教育や学校教育に活用できる人。
	化粧ファッション学科	5. 幸福な人間生活に資する「よそおいの美」を創出し、調和・共生をもたらすよそおいの行為を実践できる教養ある人。 6. ファッション・化粧・美容の高度な専門知識・技能の獲得をもとに関連産業を支える人。また、社会教育や学校教育に貢献できる人。 7. よそおいに関する豊かな学術的知見と教養を背景に、リーダーシップを発揮して活躍できる人。
児童教育学部	児童教育学科	1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。 2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。 4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。 5. 子どもについての幅広い専門知識と多角的で柔軟な考え方を身につけた人。 6. 子どもの成長や発達を支える教育・保育のエキスパートとして、保育所、施設、幼稚園、小学校、中学校をはじめとする子ども関連の職場など幅広く社会や地域で活躍できる人。
	健康栄養学科	1. 高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。 2. 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。 3. 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。 4. 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。 5. 複雑で変化の激しい現代社会において、個人の充実した人生と社会の持続的発展を実現するために、自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導くこれから必要とされる現代的行動力を身につけた人。 管理栄養士専攻 6. 行政、教育現場、給食施設、企業など幅広い分野で、人間栄養学に関する高度な専門知識を活用し実践できる人。

		7. 医療や福祉などの現場で、個々人の栄養状態を的確に把握、評価し、その結果をもとに適切な栄養管理・栄養教育ができる、人間栄養学に関する高度な専門知識を持つ管理栄養士。 食物栄養専攻 6. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理に関する基本的技術を身につけ、地域社会と家庭で栄養学の知識を活用・実践し健康で文化的な生活を送ることが出来る人。 7. 食品工業・産業分野における基本的な食品開発及び企画力を有し、食に関わるあらゆる分野で活躍できる人。
--	--	--

また、大学院では、人間科学科学研究科共通のミッションに加えて、3専攻教育内容に即したミッションをそれぞれ箇条書きで簡潔に文章化しており、それらを以下、表として示す〔表 1-1-4〕。

〔表 1-1-4〕 ミッション（大学院）

人間科学研究科	人間科学研究科は、建学の精神に基づいた教育を行い、次のような人材を育成します。 1. 人間を多面的かつ深く探求するとともに、人間生活の質の向上に資する専門的能力を修得できる人。 2. 高度専門職業人として社会に貢献できる人。
臨床心理学専攻	臨床心理学専攻は、次のような人材を育成します。 3. 基礎から実践につながる理論を学び、心理臨床実習を通して高度な専門的知識と技能を身につけて行動できる人。 4. 人間心理の特徴と変容を深く考究する力を備えて心理臨床の実践ができる人。
人間栄養学専攻	人間栄養学専攻は、次のような人材を育成します。 3. 人間の身体状況や食行動、栄養状態を総合的に判断して指導することができる高度の専門知識と実践的な能力を身につける人。 4. 医療機関、健康・食品産業、学校、行政および地域で活躍できる高度専門職業人。
化粧ファッション学専攻	化粧ファッション学専攻は、次のような人材を育成します。 3. 身体と身体美、および身体の外見に関する学問、すなわち化粧ファッション学の問題系の広がりとはそれに対応する教育研究の必要性に着目し、また扱うべき教育研究の対象を明確にすることで化粧ファッション学という新しい分野の専門性を有する人。 4. 繊維、アパレル、化粧、美容等に関連する産業分野、および文化芸術等の分野において活躍のできる専門的知識と技術、そして見識を備えた高度専門職業人。

以上のように、本学では、建学の精神に基づき、それぞれの学部・学科、大学院各専攻の特色に即して、教育目的とするところを簡潔な文章として具体的に明示している。

1-1-④ 変化への対応

本学では、昭和 55（1980）年に『樟蔭学園教学の精神』【資料 1-1-4】をまとめ、本学の建学の精神を明確に位置づけた。この冊子は、樟蔭学園における中学・高校・大学の一貫教育を進めるために設置された樟蔭学園教育協議会が、5 年にわたる協議・懇談を経てまとめたものである。建学から 60 年を経た段階で、建学の時代における先見性を評価し、時代への適合性について触れたものである。また、平成 14（2002）年には、ミッションステートメントを制定した【資料 1-1-5】。『樟蔭学園教学の精神』発刊から 20 余年、創立から 85 年を経て、建学の精神が当時であってどのように表現されるべきか、今後どのような人材を育成していくのかといった観点から、改めてまとめたものである。

そして平成 23（2011）年には、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの検討過程から、本学が目指す育成する人物像を提示した。

- 1 自ら情報を収集・精査し、広い視野からものごとを判断し、自らの道を切り拓く自律的な生き方ができる人。
- 2 堅実で心豊かな社会生活を営むことのできる「知恵」を身につけた人。
- 3 職場・家庭・地域社会において人間関係の要となる人。

それ以後、本学の使命・目的、教育目的に基づき、時代の変化や学内における改組の状況をふまえながら、育成する人物像についての見直しも行っており、令和 2（2020）年度末には、本学の建学の精神を改めて確認するととの観点から、育成する人物像の第 1 として、「高い知性と豊かな教養に基づき、生涯にわたって学び続けられる人。」を掲げた。

一方、学園創立 100 周年に当たった平成 29（2017）年には、大学として「グランドデザイン 2030—美 Beautiful—」（以下、「グランドデザイン 2030」）を策定し、来るべき西暦 2030 年の本学のありたい姿を、次のような 6 つのビジョンにまとめた【資料 1-1-6】。

1. 知性の「美」を中心に、情操の「美」、品性の「美」を高める学び
2. 充実したキャンパスライフを支えるサポート体制
3. 良きパートナーシップ精神をもった地域貢献、社会貢献の推進
4. アカデミックな観点から「美」にアプローチする研究の推進
5. 多様性を尊重し合う学生の受け入れ
6. 樟蔭から世界につながるネットワークの構築

これらのビジョンは、「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」という建学の精神を踏まえながら現代社会の課題に対応すべく、目標とするところを設定したものである。とりわけ大学開学 70 周年の令和元（2019）年には、「〈創立 70 周年記念フォーラム〉今、なぜ「美」の感性・意識が求められるのか？～私の「樟蔭美」がこれからの時代を生きる軸になる～」を開催し、本学が目指すところを広く学外へもアピールした【資料 1-1-7】。さらにその後も、大学として地球規模の課題解決にも貢献すべく、学内外における SDGs の取り組みとの連動性を高めつつ【資料 1-1-8】、「グランドデザイン 2030」の実現に向けて取り組んでいる。

(3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

創立者森平蔵の志を原点とする、現代社会に対応し得る「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた社会に貢献できる女性の育成」という建学の精神に基づいた本学の使命・目的及び

教育目的は、学部・大学院それぞれの「学則」に規定されている。それを踏まえて定める各学部・学科、大学院研究科各専攻のミッションについては、社会や時代の変化、また学内の改組などに対応しながら、毎年度末に学部・学科、大学院研究科・各専攻で確認、見直しを実施し、全学点検・評価会議で審議の上、大学協議会・教授会でも報告し、次年度のそれを決定するというプロセスを構築している。このプロセスを稼働させることで、不断に確認と見直しを行う。

また、「グランドデザイン 2030」の実現・達成を目指す過程を通して、学生・教職員のみならず、地域社会においても本学の使命・目的及び教育目的について、いっそうの支持をいただけるよう努力していく。

※エビデンス集・資料集

【資料 1-1-1】大阪樟蔭女子大学学則・大阪樟蔭女子大学大学院学則

【資料 1-1-2】学園要覧 2021

【資料 1-1-3】学生便覧 2022

【資料 1-1-4】樟蔭学園教学の精神

【資料 1-1-5】ミッションステートメント

【資料 1-1-6】グランドデザイン 2030

【資料 1-1-7】創立 70 周年記念フォーラムチラシ

【資料 1-1-8】SDG s の取り組み（ホームページ）

1-2. 使命・目的及び教育目的の反映

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

1-2-② 学内外への周知

1-2-③ 中長期的な計画への反映

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

(1) 1-2 の自己判定

「基準項目 1-2 を満たしている。」

(2) 1-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-2-① 役員、教職員の理解と支持

使命・目的を明示した「学則」の改正については、教授会・大学院研究科会議で審議の上、毎月定例で開催される理事会に逐次報告して審議されており、教職員、そして役員の理解と支持を得る仕組みとなっている。また、「学則」の改正のみならず、ミッションについても、1-1 で触れた通り、各学科の学科会議や大学院各専攻で議論した内容を部館長会で審議し、大学協議会でも協議の上、教授会・大学院研究科会議で確認する過程を通して、教職員の理解と支持を得る仕組みとなっている。

1-2-② 学内外への周知

ミッションについては、「三つのポリシー」「教育研究上の目的」「アセスメント・ポリシー」と一括して、本学ホームページ上に「教育の理念／指針」の項目に掲載して、学内外へ周知している【資料 1-2-1】。

学生・大学院生に対しては、年度初めのガイダンス資料として『学生便覧』（学部生用）や『履修ガイド』（大学院）を配付、「学則」に規定する使命・目的及び教育目的を周知している。教員に対しては、年度末に大学協議会などの資料を介して次年度のミッションや三つのポリシーなどを周知するとともに、年度初めに教授会における学長の所信表明を通じて、さらには学生・大学院生向けのガイダンス資料も配付するなどして周知を図っている。

さらに、新入生に対しては、入学式などの行事の際の学長式辞、新入生ガイダンス、自校教育を担う初年次教育科目「樟蔭の窓」（全学必修）を通して、また、新任教職員へは就任者研修会の中で、それぞれ周知すべく努めている。

なお、学園創立 100 周年に当たる平成 29（2017）年には、『学校法人樟蔭学園 創立 100 周年記念誌』（平成 30（2018）年 9 月発行／DVD 版有）を作成して、学園関係者に配布し、学園創立時以来の建学の精神とその展開について、広く周知したことも付け加えておく【資料 1-2-2】。

1-2-③ 中長期的な計画への反映

本学では中長期計画を 5 か年単位で策定しており、現在は令和元（2019）年度に策定された学校法人樟蔭学園「第Ⅲ期中長期計画（2020 年度～2024 年度）」（以下、「第Ⅲ期中長期計画」）に沿って運営している【資料 1-2-3】。その策定は、学長以下部館長（副学長、大学院研究科長、学部長、図書館長、教務部長、入試部長、学生部長、キャリアセンター長、教育開発機構長、事務局長、事務部長）が中心に行っており、各部署においても使命・目的及び教育目的の実現に向けて努力している。またその中に「使命・目的の実践」という大課題を掲げ、西暦 2030 年に向けて策定した「グランドデザイン 2030」の“6 つのビジョン”に関わる施策の実施に努めることについても明示し、その連動性を高めた。

1-2-④ 三つのポリシーへの反映

本学・本学大学院では、「学則」に明示する使命・目的及び教育目的、ならびにそれらに基づき定めたミッションを踏まえて、それぞれ三つのポリシーを策定している。加えて、学部・学科ごとに、また大学院研究科・専攻ごとに、三つのポリシーを定め、平易な文章で明示している。それらは前述のとおり、大学ホームページにおいて公開している。

また、三つのポリシーについても、先の 1-1 で述べたプロセスを稼働させ、年度末に学部・学科ごと、大学院研究科専攻ごとに確認、見直しを行っている。

1-2-⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学における教育研究組織としては、学芸学部・児童教育学部・健康栄養学部の 3 学部を設置している。学芸学部は、国文学科・国際英語学科・心理学科・ライフプランニング学科・化粧ファッション学科の 5 学科からなり、児童教育学部は児童教育学科、健康栄養

学部は健康栄養学科をそれぞれ置いている。さらに大学院は、人間科学研究科に臨床心理学・人間栄養学・化粧ファッション学の3専攻を設置している。いずれにおいてもその「学則」にも明示するとおり、建学の精神と使命・目的及び教育目的に則って、教育活動を行っている。

なお、学部教育においては、「高い知性」と「豊かな情操」を涵養することを目的に学士課程教育センターを組織し、学部横断的な教養教育を実施する運営主体としている。その学士課程基幹教育科目の中で自校教育科目である「樟蔭の窓」を令和3(2021)年度から、1年生の全学必修科目として、本学の建学の精神とそれに基づく本学の歴史と伝統、及び教育目的についても講義し、学生への周知と理解を深めてもらえるよう努めている【資料1-2-4】。

また、教育研究支援組織として、図書館、ITサポートセンター、ラーニングサポート、教職支援センター（教職支援課）を設置し、教育目的の達成に向けて支援する体制を整えている。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

使命・目的及び教育目的については、さまざまな機会を捉えて学生ならびに教職員に周知するとともに、教員や役員の理解と支持を得るように努める。一方、学生についても、全学必修化した「樟蔭の窓」の講義内容の改善を図り、本学の建学の精神、使命、そして教育目的などについて、さらなる周知を図っていく。また、それらや三つのポリシーについては、先の1-1で述べたプロセスを稼働させて、社会の変化や学内の改組に即応した見直しを継続して行く。

中長期計画に関しては、本学園では経営企画課主導で毎年度末にふりかえりが行われ、年度ごとの学園の『事業報告書』が公表されている【資料1-2-5】。その際大学部門では、学長を中心に部館長会でふりかえりと次年度に向けての検討を行い、学園の「事業計画」として集約されている。

今後こうした見直しやふりかえりを通して、事務組織のより適合的な編成によるサポートも実現しながら、本学の使命・目的及び教育目的が各方面に的確に反映できるよう努める。

※エビデンス集・資料集

【資料1-2-1】教育理念／指針（ホームページ）

【資料1-2-2】学校法人樟蔭学園 創立100周年記念誌

【資料1-2-3】学校法人樟蔭学園 第Ⅲ期中長期計画

【資料1-2-4】「樟蔭の窓」シラバス

【資料1-2-5】2021年度事業報告書

〔基準1の自己評価〕

本学では、創立者森平蔵の志を原点とする「現代社会に対応し得る『高い知性』と『豊かな情操』を兼ね備えた女性の育成」という建学の精神に基づき、使命・目的及び教育目的について明確に設定している。さらに、その使命・目的及び教育目的を反映した人物像の

育成を具体的なミッションとして掲げ、その達成を図るべく三つのポリシーを設定し教育活動を行っている。それらについては、大学ホームページなどで広く公開するとともに、機会を捉えて学生・教職員に周知するよう努めている。また、ミッションや三つのポリシーなどについて見直し、検討するためのプロセスを構築し、時代や社会の変化、あるいは学内の改組に対応できるように努めている。そうした見直しの過程を通して、教職員や役員の理解と支持を得るよう努めるとともに、部館長会を核として法人組織とも協力の上、中長期計画との連動性を高めるよう努めている。

以上のような点から、基準1の評価項目を満たしていると判断する。